

組織としての公文書番号を付番していない場合は、空欄。

令和 3 年 3 月 31 日 第 号

文化庁長官 殿

代表者の押印は不要です。

団体名 市
 住 所 県 市 町3-2-1
 代表者職名 市長
 代表者氏名

令和3年度 Living History (生きた歴史体感プログラム) 促進事業 交付要望書

令和3年度 Living History (生きた歴史体感プログラム) 促進事業について、補助金の交付を受けたいので、関係書類を添えて下記のとおり要望します。

事業の名称	×市の文化財を活かした歴史体感プログラム事業	
補助事業の着手及び完了の予定期日	着 手 3 年 月 日 完 了 4 年 3 月 31 日	
補助金の交付要望額	(補助対象経費	円 円 の %)
(ふりがな)		収支予算書の交付要望額と同額。 千円未満の端数は申請できませ んので、自己負担額等で負担し てください。
担当者氏名		
所属		
連絡先 (TEL)		
" (FAX)	実務を担当(書類作成)している方の氏名を記載いただき、平日の日中に連絡のとれる電話番号も記載してください。	
" (E-MAIL)		
書類等の郵送先		
その他(日中連絡先)		

申請者の財政規模又は収支及び財産の状況に関する書類

(1) 申請者が地方公共団体である場合……当該事業を実施する日の属する当該地方公共団体の会計年度の
前々年度の財政規模を記載した書類

年度(一般会計)

人口	歳出 総額	歳入 総額	歳入総額内訳					交付税の 交付・ 不交付 区分	備考
			税収 入額	国庫 支出金	普通 交付税 交付金	特別 交付税 交付金	その他		
人	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円		

(記載上の注意)
 ・決算ができない場合は、予算額でよい。
 ・備考欄には、財政力指数を記載すること。

(2) 申請者が協議会等である場合……申請書を提出した日の属する年の前年分の収支計算書及び財産の
状況を明らかにした書類(実績がない場合は当該年度の収入見込額)

イ. 収入及び支出

収 入			支 出		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
	円			円	
合 計			合 計		

(記載上の注意)
 ・有料公開している場合は、観覧料等の収入について、項目別に記載し、備考欄に単価と人員を必ず明記すること。

ロ. 財産状況

資 産			負 債		
区分及び種類	種 類	評価額	区分及び種類	金額	
動 産		円	負 債		円
種類	現金		種類	借入金	
	預貯金				
	有価証券				
	その他				
不動産		円			
種類	土地		負債合計		円
	建物		差引(資産 - 負債)		円
	その他		正味財産		円
そ の 他		円			
資 産 合 計		円			

(記載上の注意)
 ・この表は、申請書を提出した日の属する年の前年末現在で作成すること。
 ・資産の欄には、現金・土地・建物等、一般に資産と考えられるものを記載すること。
 ・土地建物で、貸地、貸家、山林等がある場合は、それぞれ区分して記載することが望ましい。

(2)にあたる場合には、その証明となる書類(正味財産増減計算書など)をご提出ください。

令和3年度事業計画書

事業の名称	×市の文化財を活かした歴史体感プログラム事業	
実施主体の名称	協議会	
文化財の所在する市区町村	<input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度観光振興事業費補助金交付要綱第1章第2条二に基づく指定市区町村 ・ 日本遺産の構成文化財が存する市区町村 ・ 世界文化遺産の構成資産が存する市区町村 ・ ユネスコ無形文化遺産が公開される市区町村 ・ 上記以外の市区町村 (市区町村の外国人観光客の年間入れ込み数 人) (市区町村の年間宿泊外国人観光客数 人) (当該文化財群の外国人観光客の年間入れ込み数 人)	
近隣の外国人観光客が多く来訪する施設との連携	(観光施設)と連携した	エリアにおける観光周遊ルートの設定 ← 記載必須です。
WiFi、多言語、キャッシュレス対応、洋式トイレ等の受け入れ環境の整備	整備済み (<input checked="" type="checkbox"/> WiFi ・ <input checked="" type="checkbox"/> 多言語 ・ <input checked="" type="checkbox"/> キャッシュレス対応 ・ 洋式トイレ ・ ())	本年度整備予定 (WiFi ・ <input checked="" type="checkbox"/> 多言語 ・ <input checked="" type="checkbox"/> キャッシュレス対応 ・ 洋式トイレ ・ ())
文化財保存地域活用計画等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ← 無	〇〇市歴史文化基本構想 計画を策定していない場合は「無」と記載。策定している場合は、「有」とともに保存活用計画の名称を記載してください。
財政規模を示す指数	財政力指数:0.5以下(地方公共団体)	DMOの参画 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (団体名: 〇市DMO協議会) ・ 無
同一年度に、連携して実施する観光旅客税事業	重要文化財	地方公共団体: 一昨年の財政力指数 民間団体: 事業規模指数(事業説明書P.6参照) がどれにあたるかをご選択ください。
文化観光推進法に基づき認定した拠点計画及び地域計画に基づく事業又は当該事業と連携して実施	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 ・ 非該当	県文化観光推進推進地域計画 該当する場合は、計画の名称を記載してください。
文化観光推進法に基づき認定した拠点計画及び地域計画に基づく事業又は当該事業と連携して実施		ここでいうDMOは、登録観光地域づくり法人(登録DMO)のことです。

現状写真等、可能な範囲で入れてご説明ください。(別添可)		全体の取組(核となる文化財の整備計画や関連施設における取組等)において、本取組をどのように位置づけ、活用しようとしているかについてもご記載ください。	
年度内に、開発したプログラムを活用して事業(本番イベント等)を実施すること			
×市には、市域の南部にあたる エリアをはじめ貴重な文化財が集積している。市では エリアの観光ルートとして、下に掲げる文化財を周遊するコースを推奨しているところである。 このたび、 エリアに所在する史跡「 城跡」、重要文化財「 ×城」、名勝「 庭園」、この地の江戸時代の状況を記録した重要文化財「 家文書」を活かして、その魅力を磨き上げるため付加価値を創出する取組を通じ、外国人観光客等を始めとする誘客を進めるとともに、文化財の特別公開などを通じて経済の好循環による経済活動を行う。 同時に本年度内に開発した各種プログラムを活用し、本番イベントとして実施する。			
【実施スケジュール】 プログラム <令和3年度> プログラム開発、本番イベント実施 <令和4年度～> プログラム実施(通年実施) プログラム <令和3年度> プログラム開発(調査・企画、開発、ツール制作(継続)) <令和4年度> 4月～8月: ツール開発・広報、9月～3月: プログラム実施(月2回) <令和5年度～> プログラム実施(通年実施) プログラム <令和3年度> 調査・企画 <令和4年度> プログラム開発・ツール開発(継続) <令和5年度> ～9月: ツール開発、10月～プログラム実施(月1回) <令和6年度～> プログラム実施(通年実施)		複数年の実施を予定している場合は、そのスケジュールも記載してください。	

プログラム のテーマ		プログラム で対象とする主要文化財	
名勝「庭園」における茶会体験		名勝「庭園」	
概要	×城の庭園であった庭園において、江戸時代の史料に基づいて茶会を再現する。庭園内の茶室や屋外での野点などに観光客が参加することによって、当時の文化を体験する。		
実施するプログラムの数によって、追加してください。 プログラムの詳細は、(様式1-6)要望書別紙(事業内容等)にご記入ください。			
プログラム のテーマ		プログラム で対象とする主要文化財	
「家文書」に基づく大名の正月儀式再現		史跡「城跡」重要文化財「×城」、重要文化財「家文書」	
概要	重要文化財「家文書」の記録に基づき、大名の正月行事を復元する。×城や城跡において、復元した上級武士などの正装を着用する体験や、饗応の体験、復元した「正月の御膳」を楽しむ体験に観光客が参加することで、武家の「ハレの儀式」を体感する。		
プログラム のテーマ		プログラム で対象とする主要文化財	
「家文書」の絵図に基づく家大名行列の復元		史跡「城跡」、重要文化財「家文書」	
概要	「家文書」の絵図に基づいた家の大名行列を復元し、武家の文化を体感する。		

3つを超えてプログラムを作る場合は、行を追加してください。

業務スケジュール (本番イベント公開予定日は)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム			調査・企画	→			ツール制作	→				
			プログラム開発	→			PR	→				
プログラム			調査・企画	→					ツール制作	→		
							プログラム開発	→				
プログラム			調査・企画	→								

歴史的状況の調査・検証、事業の実施体制	
調査体制	市歴史博物館学芸員が基礎調査を行い、×市DMO協議会のスタッフが推敲を加えて、史実に基づく親しみやすいストーリーを作成する。
検証体制	史実の検証は、外部有識者 名で構成する、×市Living History検討会(会長 山×助 大学文学部教授)が調査成果の検証、実施にあたっての検討を行う。 【体制】会長 山×助(大学文学部教授 近世史) 副会長 川 太郎(×市史編纂者) 委員 …… 委員 ……
プログラムの実施にあたっては、外部有識者による検討会等を設けて、史実に基づいたプログラム内容であるとともに、磨き上げのポイントとなる事業の有効性を検証してください。 多角的な視点から検証を行うため、複数の有識者による検証・検討を求めます。	
実施体制	事業実施にあたっては、外部有識者・関係団体・行政関係者などが「市Living History運営委員会」を構成し、連携して実施するための検討と提言を受けて、効果を高める取組を実施する。

体験プログラムの開発にあたって(該当箇所○を付けてください。)	
外国人目線の取り入れ方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元市区町村の外国人(留学生も含む)をモニターツアーに招待して検証する ・ 実施体制に含まれる団体に所属する外国人スタッフの意見を反映する ・ インバウンドについて専門知識のある有識者を招聘し、意見を反映する ○ 外国人目線による説明のシナリオを作成する ・ 上記以外の工夫(下記へ自由記述)
訪日外国人観光客へのガイドングについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施体制に含まれる団体に所属する外国人スタッフが対応を行う ○ 新たに多言語対応が可能なスタッフを教育する ・ 電子機器や看板、パンフレット等で多言語対応を行う。 ・ 上記以外の工夫(下記へ自由記述)

体験プログラムの今後の継続的な実施に向け、以下の業務を想定していますか？（該当箇所にチェックを付けてください。）

- (1) 体験プログラムを継続的に実施・販売していくための運営マニュアルの作成 YES NO
- (2) 地域の観光関連事業者（宿泊施設や交通事業者、DMO等）を対象とした体験プログラムのお披露目会 YES NO
- (3) 体験プログラムの集客・販売に必要なプロモーションツールの作成 YES NO

プロモーションツールではパンフレットの印刷代やHPの制作は支援対象外となりますのでご注意ください。
パンフレットの下稿作成や既存のHPに掲載するための写真撮影、動画、原稿などのデータ作成については支援の対象になります。

具体的な指標及び目標値		R2 (実績値)	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
指標・目標値	Living History事業の各プログラムへの参加者総数【必須】	-	150人	2,700人	53,000人	56,000人	58,000人	60,000人	60,000人
指標・目標値	対象文化財群に訪れた外国人観光客数【必須】	18,000人	25,000人	29,000人	34,000人	38,000人	41,000人	44,000人	46,000人
指標・目標値	対象文化財における外国人観光客満足度(アンケート調査)	68%	70%	75%	申請年の前年実績を基準として、事業終了から4年間で想定される目標値を記入ください。(R2年度の実績値が確定していない場合は、R1年度の実績値を記入してください)				
指標・目標値	の測定方法	入場料支払い時のカウント ←			「対象文化財群に訪れた外国人観光客数」の測定方法を記入してください。				

3つを超えて指標及び目標値を作る場合は、行を追加してください。

Living History促進事業に伴う令和3年度の自己収入見込み			
プログラム	300,000円	受益の方法	茶会体験費用 1人 2,000円 利用者見込み 150人 (25人×6回)
プログラム		受益の方法	
プログラム		受益の方法	
合計	300,000円	備考	

3つを超えてプログラムを作る場合は、行を追加してください。

作成したプログラムの次年度以降の運用計画について

上記の目標値を達成するために、どんな取り組みをしていくか記入してください。
(例:プログラムの運営方法、体制、民間団体や他施設等の外部連携、告知・販促の考え方など)

訪日外国人観光客の誘客施策(プロモーション方法や販路など)についても記入してください。

収支予算書

区分	金額 (予定を含む。)	内訳	備考
収入の部	本事業以外の補助金・助成金	0	プログラムの実施に伴い発生する収入は、ここには記載しないでください。 様式 1 - 3 (事業に伴う R3 年度の自己収入見込み) および様式 1 - 6 (特別料金の徴収等について) にのみ記入してください。
	その他収入	0	
	小計 (A)	0	交付要望額 (C) は千円未満の端数が出ないようにしてください。端数が出る場合は自己負担額にいれてください。この値は 1 枚目の、補助金の交付要望額と同じになります。
	自己負担金 (B)	11,980,000	
	本事業による補助金の交付要望額 (C)	11,930,000	
収入合計 (A) + (B) + (C)	23,910,000	0	同額になるようにしてください。

区分	総事業費	補助対象経費	交付要望額	総事業費のうち自己負担額等	
支出の部	総事業費	23,910,000	11,930,000	11,980,000	
	主たる経費	23,910,000	23,860,000	11,930,000	11,980,000
	賃金	84,000	84,000	42,000	市予算 42,000
	共済費	0	0	0	0
	報償費	100,000	50,000	25,000	市予算 75,000
	旅費	3,200,000	3,200,000	1,600,000	市予算 1,600,000
	使用料及び賃料	90,000	90,000	45,000	市予算 45,000
	役務費	0	0	0	0
	委託費	20,250,000	20,250,000	10,125,000	市予算 10,125,000
	請負費	0	0	0	0
	備品購入費	0	0	0	0
	原材料費	0	0	0	0
	需用費	186,000	186,000	93,000	市予算 93,000

実施するプログラムの数ごとに経費の内訳を、記入ください。
3つ以上実施する場合は、行を追加してください。

様式 1 - 5 (記入例)

支出内訳明細

事業名称	経費内訳	総事業費	補助対象経費	交付要望額	自己負担額等
名勝「庭園」における茶会体験	<p>【報償費】 運営会議有識者 10,000円 × 委員5名 50,000円 (報償費内訳) その他 50,000円 補助対象経費外</p> <p>【旅費】 現地調査旅費 500,000円 (旅費内訳 - 1) 運営会議旅費 500,000円 (旅費内訳 - 2)</p> <p>【委託費】 茶会道具・室礼 製作委託 一式 5,500,000円 (見積番号) 茶会装束 製作委託 一式 5,000,000円 (見積番号) インバウンドガイドシナリオ、運営マニュアル制作委託 一式 1,500,000円 (見積番号)</p> <p>【需用費】 消耗品費 50,000円 (需用費内訳)</p>	13,150,000	13,100,000	6,550,000	6,600,000
「家文書」の絵図に基づく大名の正月儀式再現	<p>【旅費】 大名正月儀式の文献調査等旅費 1,200,000円 (旅費内訳 - 1) 検討会有識者旅費 500,000円 (旅費内訳 - 2)</p> <p>【委託費】 大名装束(大紋衣) 制作委託 一式 5,800,000円 (見積番号) 大名正月儀式のプログラム企画・開発費 一式 2,450,000円 (見積番号)</p> <p>【需用費】 消耗品費 50,000円 (需用費内訳)</p>	10,000,000	10,000,000	5,000,000	5,000,000
「家文書」の絵図に基づく家大名列の復元	<p>【賃金】 調査スタッフ 1,400円 × 60時間 = 84,000円</p> <p>【旅費】 現地調査旅費 500,000円 (旅費内訳)</p> <p>【使用料】 打合せ会議 15,000円 × 6回 = 90,000円</p> <p>【需用費】 消耗品費 86,000円 (需用費内訳)</p>	760,000	760,000	380,000	380,000
合 計		23,910,000	23,860,000	11,930,000	11,980,000

費目ごとの執行内容が具体的に分かるよう、別紙の内訳書を添付ください(様式任意)。
「 費 一式 円」などの記載だけでは不可。

見積書が複数ある場合には、各見積書の右上に番号をふってわかるように記載してください。
また、相見積がある場合には、相見積とそうでないものの違いがわかるように右上に明記してください。

課税対象経費については、消費税率10%として記載すること。

3つを超えてプログラムを作る場合は、行を追加してプログラムごとの内訳を記載してください。

実施するプログラムごとに作成してください。

様式 1 - 6 (記入例)

プログラム調書

実施主体	×市	連携する事業者	地域協議会、市商工会議所
実施計画の名称	×市の文化財を活かした歴史体感プログラム事業		～ は(様式1)交付要望書と合致させてください。
実施するプログラム名	名勝「庭園」における茶会体験		
プログラムの内容(プログラムの具体的な手法、年間の実施回数や1回あたりの参加想定人数等を記載) 年度内に開発したプログラムを活用して事業(本イベント等)を実施すること			
<p>開催場所や体験イメージの写真等、可能な範囲で入れてご説明ください。 (写真の枚数が多くなる場合には別途資料としてまとめていただいても構いませんが、番号やキャプションをつけ、その写真がどこを示しているのかわかりやすく表記してください)</p> <p>(記入例) <u>プログラムの内容</u> 「〇〇家文書」の史料および時代考証に基づき、名勝「庭園」における茶会を再現するプログラム。 往時の衣装や所作等を再現しながら、武家文化を体感する茶会体験プログラムを想定する。 <u>本事業で制作、再現するもの</u> ・ 家の史実に基づいた当時の茶会衣装の復元、活用 ・ 茶会再現に伴う茶室の室礼および漆器一式の復元、活用 ・ インバウンド向けガイドシナリオ ・ 運営マニュアル <u>プログラム販売の主体と募集方法</u> 〇〇観光協会が募集(販売)を行う ・ 地域の観光事業者を対象としたモニターツアー(10月頃)を実施。まずは地域の方にプログラムを紹介する。 ・ 名勝「〇〇庭園」における茶会体験プログラムとして関連団体向けに特別ツアーを設定 ・ 旅行会社のツアーに組み込む。(本事業全体の委託事業者とし旅行会社を想定) 令和3年度: 1月～3月に、1回あたり25人×6回の実施を想定</p> <p>どのような人をターゲットとしてプログラムを検討するのか(ファミリー向け、歴史好き等)についてもご記載ください。</p> <p>事業初年度のゴールは、開発したプログラムを実施することです。誰が、誰に、どのように販売するかを見据え計画していただく事業の全体像が整理されます。</p>			
プログラムで活用する文化財の内容			
名称		指定等	
名称		指定等	
名称		指定等	
付加価値を付与するために使用する資料等			
<p>家文書(明和元年)...幕末の家の茶会の様子を記した史料</p> <p>参考とする史料の写真等、可能な範囲で入れてご説明ください。</p> <p>復元に使用する根拠となる文献、資料、古文書などを記載するとともに、プログラムとの関係性を具体的に記載してください。</p>			
次年度の特別料金の徴収等について(単価及び収入見込額)			
収入	体験参加料	2,000円×2,400人=4,800,000円	
収入	特別プログラム参加料	30,000円×100人=3,000,000円	事業実施の翌年度以降、通年実施する際の特別料金の徴収見込みを記載してください。
収入	体験協賛金	1,000,000円	
その他(プログラム以外にLiving Historyの成果品を活用する計画がある場合は、その内容を記載)			
<p>Living History事業で制作した調度品やイベントの内容を、別事業で利用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作した衣装を、博物館で展示・解説 ・ 制作した衣装の着用体験、写真撮影 ・ 制作した衣装を職員が着用して日常的に案内を実施 ・ 制作した道具の使用体験 ・実施したイベントの映像ソフト化 など 			

プログラムごとにページを追加ください。
スペースが足りない場合は、行の幅を変更したりしても差し支えありません。

協議会の事例を掲げていますが、地方公共団体の場合も、関係団体の構成を具体的に記載してください。

様式 2 - 1 (記入例)

実施体制の概要

(ふりがな) 名称	し 協議会	(ふりがな) 代表者職名・氏名	しちょう 市長
所在地	〒000-0000 県 市 町3-2-1	電話番号	* * * * - * * * * - * * * *
構成員		FAX番号	* * * * - * * * * - * * * *
(行事保存会会長) (市観光協会会長) (市教育委員会 課長) (市 課長)		構成団体 保存会 市観光協会 市	
組織図 (事業実施時)	<p>市教育委員会 課や 市 課、市指定有形文化財(建造物)の保存会、大学の教授(学部 学科教授(専門分野:都市計画))、観光協会会長及び地域住民代表として 自治会会長等で構成する実施委員会を設置し、……………。</p> <pre> graph TD A[委員長 (大学教授)] --- B[事務局 x市教育委員会] A --- C[副委員長 (保存会会長)] A --- D[委員] A --- E[委員] A --- F[委員] </pre> <div data-bbox="948 1406 1460 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 役割について、誰が何をするかわかるように、具体的に記載してください。 例:時代考証、市場調査、ツール作成、プログラム造成、販路形成 など </div>		
次年度、プログラムの販売主体となる組織	<div data-bbox="400 1648 1136 1805" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 販売主体とは、本プログラムのセールスを推進する担当部署のことで、地域の観光施設との情報共有、OTAへの登録、ランドオペレーターへの営業などを行う組織を指します。 </div> <p>上記の組織は本年度事業の運営に参画していますか <input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO</p>		

協議会等の設置規則を併せて提出すること。

その他、本事業に協力することが可能な地域住民等による団体(例:自治会、町内会、公民館、NPO、文化財愛護団体等)を把握していれば、リストを提出すること(様式自由)。

見積番号

見積書

市 殿

茶会再現作成委託費について、下記のとおりお見積もりします。

令和 年 月 日

(株)
代表取締役

印

金 4,584,000 円

事項	金額	備考
企画経費	400,000	
取材調査経費	300,000	
調査関係の内部検討会資料	50,000	
製作スタッフ費用(人件費)	2,700,000	別添内訳
使用機材の使用料	500,000	別添内訳明細
丁度品仕上げ塗料費用	250,000	
消費税(10%)	420,000	
小計	4,620,000	
値引き・調整費	36,000	
合計	4,584,000	

人件費については、内訳を記入してください。
単価等は「各費目における単価上限、補助対象外経費等」によるものとしてください。
使用料、借料、再委託費、消耗品費等については、内訳明細を添付してください。

発注予定金額が10万円(税込)以上の場合、見積書を徴すること。
発注予定金額が100万円(税込)以上の場合、複数者から見積書を徴してください。複数者から見積書を徴することができない場合は、理由書(任意様式)を添付してください。

(様式3) 成果報告書は申請時には不要です。次年度の5月にご提出ください。

様式3 (記入例)

令和3年度 Living History (生きた歴史体感プログラム) 促進事業 成果報告書

実施主体	市教育委員会	連携する事業者	地域協議会、市商工会議所				
実施計画の名称	×市の文化財を活かした歴史体感プログラム事業		～は(様式1)交付申請書と合致させてください。				
事業年度	令和3年度						
設定した指標・目標と2年度の達成状況							
Living History事業の各プログラムへの参加者総数[必須]	3年度	150人	9年度	60,000人	達成状況	3年度	160人
対象文化財群に訪れた外国人観光客数[必須]	3年度	25,000人	9年度	46,000人	達成状況	3年度	24,000人
対象文化財における外国人観光客満足度(アンケート調査)	3年度	70%	9年度	85%	達成状況	3年度	75%
事業成果の概要 令和3年度に実施した事業の実施状況を記載してください。 事業の内容を示す証拠書類(写しや写真等)を別途添付してください。							
【プログラム 名勝「庭園」における茶会体験】 ・プログラム概要: ~の考証を行い、~の史料を基に衣装や道具を復元し、名勝 庭園にて、 の茶会を体験するプログラムを開発した。 ・実施日: 令和3年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時 ・参加人数: 160人(事前予約制) 参加費: 2,000円 ・告知・集客方法: webサイト(), SNS(), ポスター掲示 ・制作したツール類: 衣装 点、茶器 点、... (リスト、写真添付でも可) ・当日の様子、パンフレット等 (写真等添付) 【プログラム 「家文書」に基づく大名の正月儀式再現】				プログラムごとに記載してください。			
事業実施による効果等の検証・分析結果及び今後の見通し 令和3年度の事業実施により得られた定量的・定性的な効果や課題、今後具体的に記載してください。				計画を実施することにより、どのような効果・成果を得られたかについて、人数などの指標に基づき、定量的・定性的な効果を具体的かつ詳細に記載してください。			
フィードバックシートのアドバイスを踏まえて、どのように改善策を実行したか ・ターゲットを改めて整理し、観光協会や旅行代理店とも相談し、着地型旅 ・施設管理者と協議し、プログラムを継続的に実施できる運営体制を整えた。 事業実施により得られた定量的効果 ・Living History事業の各プログラムへの参加者総数(R3年度): 目標値 150人 実績値 160人(達成率) 107% ・対象文化財群に訪れた外国人観光客数: R2実績 23,000人 R3目標 25,000人 事業実施により得られた定性的効果 ・当該エリア内の訪日外国人向けツアーに本プログラムを組み込んだことで、ツアー集客 ・関連博物館との連携施策として文化財現地での体験プログラムを拡充し、来館者の満 実施により出てきた課題、その他の現状課題 ・衣装のクリーニング等のメンテナンス費用が想定よりかかっているため、予算の確保と共に、収支計画を見直す。 ・予約制の場合、現状より実施回数を増やせないため、予約なしで日常的に体験できる簡易版プログラムも検討する。 令和4年度に向けて、目標達成のための課題改善策 ・外国人観光客数の目標未達(96%)については、コロナ禍による減少に拠るものであるが、来年度の目標達成に向けては、簡易版プログラムの開発を行い、周辺の観光拠点と連携した体験プログラムの周知活動を推進し、誘客を強化する予定である。				目標未達の場合には、原因を分析し、目標を達成するための改善策も記載してください。			
補助事業実施による令和3年度収入とその用途							
プログラム	収入	体験参加料	2,000円 × 160人 = 320,000円	用途	スタッフ人件費等		
プログラム	収入			実施したプログラムごとに、得られた収入と用途を記入ください。 文化財の保存と活用に資する経済の好循環を意識していただくよう計画してください。			
プログラム	収入						
担当者連絡先							
ふりがな						
担当者(所属)	(市教育委員会文化財課)						
TEL	***** - ***** - *****	E-mail	*****@*****.*****				
住所	〒000-0000 県 市 町1-2-3						

スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。
項目を追加する場合は行を追加してください。
添付書類として、事業の内容を示す証拠書類(写し)及び次年度計画書を添付し、
実施した事業の内容が具体的にわかるよう整理のうえ提出願います。